

大分市の神崎小学校の児童が、市内田ノ浦の農園でビワの実に袋を掛ける体験学習に取り組みました。

大分市神崎の神崎小学校（中村斉校長、44人）の児童は16日、市内田ノ浦の農園でビワの実に袋を掛ける体験学習に取り組んだ。特産のビワの袋掛けや収穫を通じて地域住民と交流し、働くことの厳しさややりがいを学ぶのが狙い。20年ほど前から続けており、ビワ農家の安東保固さん（82）が茂木ビワの木を提供している。

地元ビワ部会員の阿部敏成さん（57）が「袋掛けは虫や鳥、雨から実を守る作業。今年は気候がよく実が多いので、みんなで手伝いましょう」とあいさつし、袋の掛け方を指導した。



ビワの実に袋を掛けた児童＝16日、大分市神崎

### ①ビワの収穫はいつごろでしょう。

### ③ほかに農作物を守る工夫を知っていますか？ 発表しよう。

### ②ビワになぜ袋をかけるのでしょうか。

6年の衛藤瑠華さん（11）は「袋を針金で留めるのが

難しかった。収穫が楽しみ」。1年の津田ありあさん（6）は「おいしくなるいいな」と話した。収穫は6月中旬の予定。

(2014年4月17日朝刊8面)

## 袋掛けの体験学習

——大分市の神崎小児童——

ビワの実守って おいしさUP